

令和元年10月25日

◎三石委員長 ただいまから、決算特別委員会を開会いたします。

(9時58分開会)

◎三石委員長 本日の委員会は10月23日に引き続き、平成30年度高知県一般会計及び特別会計の決算審査についてであります。

お諮りいたします。日程については、お手元にお配りしてある日程案によりたいと思いますが、御異議ありませんか。

(異議なし)

◎三石委員長 御異議ないものと認めます。

御報告いたします。23日の委員会において、会計管理局総務事務センターに対する質問があり、それに対する資料が提出されておりますので、各委員の皆様配布してあります。また、会計管理課の説明内容の訂正がありましたので、その説明資料もあわせて配布してあります。

《観光振興部》

◎三石委員長 それでは、観光振興部について行います。初めに部長の総括説明を求めます。なお、部長に対する質疑は、各課長に対する質疑とあわせて行いたいと思いますので、御了承願います。

(総括説明)

◎三石委員長 続いて所管課の説明を求めます。

〈観光政策課〉

◎三石委員長 最初に、観光政策課について行います。

(執行部の説明)

◎三石委員長 質疑を行います。

◎大石委員 幕末維新博なんですが、不用も出ていますけれども、これ3ヵ年で平成30年度が最後だったと思うんですが、先ほどの説明では、最後、自然キャンペーンのほうに引っ張られたみたいなニュアンスのお話があったように思うんです。3年やってきて、これも打ち上げ花火ではなくて、いろんな会場がせっかくできて、これが終わっても継続して、そういうところが光輝いていくというのが目的で3ヵ年やったと思うんですけれども、大体いつも年間5億円とか6億円ずっと使ってきたのが、最後の年度決算が4億円ですかね。金額だけ見たら、妙に尻切れトンボになったんじゃないかなと、そういう懸念もするところです。あと、今のお話聞いたら、人手の問題もあって、自然キャンペーンに引っ張られたみたいなお話もあったんで、そのあたりどう総括されますか。

◎澤田観光政策課長 まず、自然&体験キャンペーン自体は、引き続き歴史観光についても取り組んでいくという形になっていまして、先ほどおっしゃっていただきました補助事

業は、確かに4億円程度になっておりますけれども、例えば基盤整備を行うに当たっては、後ほど地域観光課から御説明をいたしますが、観光拠点等整備事業費補助金という別途補助金がございます、そちらのほうで磨き上げをしていく形になっています。

自然&体験キャンペーンに引き継ぐ形でやったのは、2月1日という切りかえの時期もございましたし、同じく自然&体験キャンペーンをPRしていくためには、例えば旅行会社へのセールスは半年前ぐらいから大体始まりますし、ゴールデンウィークをにらんだ場合には、早目早目に手を打っていく必要があるのです、そこと一緒にあわせて歴史観光も売っていこうということで、同時にPRをした状況です。

したがって、高知県の強みと食・歴史がございますので、それぞれ磨き上げていって基盤が一定整ってまいりましたので、今回はぜひ自然のほうにも取り組みをさせていただいて、高知県の三つの強みとして、観光基盤を整えることによって、たくさんのお客様に来ていただきたいと総括をしているところです。

◎大石委員 具体的に、各地で幕末維新博に取り組みされた皆さんの3ヵ年終わっての評価はどういう状況ですか。

◎澤田観光政策課長 観光分野といたしましては、これまで歴史観光の部分に手を入れる機会がなかったということで、今回改めて歴史文化施設の磨き上げ等も行いました。それとあわせて、各地で地域イベントなんかも開催をされておまして、非常に歴史に焦点が当たったということで、それぞれの地域では評価をいただいていると考えております。

特によかったと思っているのは、各歴史文化施設に学芸員等がいますけれども、今まで観光という視点を持てなかった部分が、改めて観光視点で取り組むことができた。歴史文化資源を使って、お客様を呼ぶ力をつけることができたのではないかと評価もいただいておりますので、そういった面で、歴史観光に力を入れてやってきたことは、よかったのではないかと考えております。

◎大石委員 最後にしますけれども、龍馬の手紙の真贋論争というか、ちょっといろいろ難しいことも出てきて、あれもうまく乗り切った感じもあろうかと思いますが、これはその事業を進めていく上で、ああいうことが起こることは、想定外だったのかもしれませんが、どういう受けとめをされているのか、関連するんでお伺いしたいと思います。

◎澤田観光政策課長 その点につきましては、想定はしていなかったところなんですけれども、もちろん龍馬の書簡というのは非常に全国的にも注目を集めましたし、都内で記者発表なんかもさせていただいて、先ほどの資料の中には全国的な話題をこちらのほうから積極的に投げかけていくという説明をさせていただきましたけれども、非常にPRできる素材として、今回の歴史観光を進めるに当たっての、まずきっかけづくりにはなったと評価をしているところです。

◎大石委員 そのあたり、ちょっとにせものじゃないかみたいな話があって、それからま

た理論武装したり作業もあったと思うんですけども、そこはまた予算に影響を与えたんでしょうか。

◎三浦副部長（総括） 予算には全く影響はございません。歴史の資料については、どうしても真贋論争というのは出てくることはありますので、あらかじめ、京都の博物館の宮川先生とか、専門家の方に見ていただいた上で、これは本物だろうということを経た上で、我々としては活用してきたと。それをもとに、いろいろと真贋論争が出てきたところについても、当初からのそういった鑑定を含めた内容で、全国的にはちょっと珍しいんですけども、実行委員会として、出てきた内容に対する反論という形でも出させていたいただいたところ です。

◎大野委員 歴史資源の磨き上げというか、観光の磨き上げをしていただいたんですけども、子供たちの修学旅行とか校外学習なんかの推移は、ここ3年間どんな感じでしょうか。

◎澤田観光政策課長 今回の歴史観光を通じまして、例えば四万十市の歴史館では、地元の小学生、中学生が、地元の歴史を研究した成果なんかも発表しておりまして、そういった意味では、非常に地元の学習意欲を高める成果があったと考えております。

◎別府地域観光課長 教育旅行の推移といいますか、平成29年度と平成30年度でコンベンション協会と広域観光組織のほうで調査した、県内の教育旅行の数字ですが、平成29年度が56校で5,364人。平成30年度が70校で6,167人ということで、歴史の効果もあったかと思えますけれども、一定、平成30年度ふえてきている状況です。

◎大野委員 その中で、県外からこられたところはどんな感じでしょうか。

◎澤田観光政策課長 先ほど地域観光課から御説明した部分につきましては、ほぼ県外の分になります。ただ、国外も一部含まれておりまして、台湾の学校なんかも含まれております。

◎大野委員 結構県内の学校なんかも、県外のほうに校外学習とか行かれることもあったりしますし、それと観光としても県内にはすごくいいツール、歴史的な観光資源がたくさんあると思うので、県外の例えば愛媛県とか香川県とかの校外学習を呼び込むとか、あとそれと修学旅行なんかでも力を入れていただいたら、すごく伸びしろがあるんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。

◎澤田観光政策課長 県内には今現在6つの広域観光組織がございまして、それぞれ市町村と連携しながら、教育旅行の誘致についても頑張っています。そういった意味で、県もできるだけ支援をさせていただきたいと思っておりますし、先ほど、ちょっと県内の分が含まれてないとお話をさせていただきましたけれども、例えば高知大学の大学生協なんかも入っておりますので、若干、県内も先ほど数字の中には含まれているので、訂正させていただきます。

◎三石委員長 教育旅行と修学旅行ですが、教育旅行というのは、ちょっと広い意味の教育旅行かね。修学旅行というのは学校にという、その点どう押さえたらいいのかな。

◎澤田観光政策課長 教育旅行、広義にとらえて、大学等も含む広い意味での学校の旅行という意味でとらえていただいたらと思います。

◎三石委員長 修学旅行は。

◎澤田観光政策課長 修学旅行は、高校あるいは義務教育、そういったところと考えております。

◎三石委員長 そういう意味で押さえればいいわけですか。

◎浜田委員 去年の12月にLCCのジェットスターが通りましたがけれども、昨年度、就航してから、観光にどう影響があったのかを教えてください。

◎澤田観光政策課長 観光入り込み客数を算出するときには、航空機の利用者の方ももちろんニーズの中には換算をしております、航空機の利用者の方は、ジェットスター就航前と後で比較いたしますと増加をしておりますので、そういった意味では、いい面があったと思います。なおかつ、自然&体験キャンペーンを展開するときには、ジェットスターとともに連携したモニターツアーなんかも実施しておりますので、そういったところも好影響していると思います。

先ほどの部分になりますけれども、平成29年と平成30年を比較した場合につきましては、航空機でいきますと3,000人ほど増加しています。

◎浜田委員 また今年度も12月から神戸にもFDAが通るということで、そんなことも利用していただきたいのと、それでLCC等で比較的安価な値段でこられた方は、観光でやはりレンタカーとかいうのでもなく、MY遊バスなどを使うんじゃないかと思うんですけれども、MY遊バスの利用者数は、昨年度どの程度でしょう。

◎澤田観光政策課長 昨年度のMY遊バスの利用者数ですけれども、6万4,982人です。

◎浜田委員 前年度との比較というか、傾向はどんな感じでしょうか。

◎澤田観光政策課長 その前年度が大体5万5,000人ですので、平成30年度につきましては、人数が増加している傾向です。

◎浜田委員 利用された方と、たまたまお会いすると、非常に景色もよくてと、すごく喜んでらっしゃって、やはりレンタカーとか車で県外から来る方多いですけれども、そういう安価な旅行で、個人でこられる方なんかは非常にこれいいと思いますので、いろんな形で、もっとふえるように努力していただきたいと思います。

◎澤田観光政策課長 我々としてもPRさせていただきたいと思います。

◎依光副委員長 観光情報発信の支援業務委託料745万円。この金額って多いようで何か少ないのかなと感じます。それでこのパブリシティがうまくいけば、いろんな戦略というか、安くいけると思うし、タイムリーに発信していくこともあると思うんです。その中

で、これ随意契約になってますけれども、そういうタイムリーなものとかも加えて発信できるのか、そこの辺いかがでしょうか。

◎澤田観光政策課長 こちらのほうは、首都圏のほうにマスメディアに集まっていただきまして、大体年3回程度そういった会議で、我々のほうから積極的に情報を提供するという取り組みです。こちらのほうにあります、例えば、志国高知幕末維新博の補助金や自然&体験キャンペーンのほうでも、プロモーションというのはやっていますので、そういった意味では、タイムリーに情報発信する機会は重なり合いながら、効果的にやっているところですよ。

◎依光副委員長 お聞きする中では、年3回の予算がこれに入っていて、それ以外にもいろいろやっていることかと思えます。それで食があり、歴史があり、体験がありといろいろあるし、地産外商とかもパブリシティーをしているわけで、何かそのマスコミの方も対象が変わるのかもしれないんですけども、一緒にできるところは一緒にプロモーションしたらいいし、体験観光を取材してもらって、番組にしてもらえら来たもらったらいいと思うし、プライベートなのか、お金出すのかわからないですが、県全体として、首都圏に情報発信ということでマスコミにPRしていますけれども、そこら辺はどういう関係になっているのですか。

◎澤田観光政策課長 産業振興推進部で地産地消・外商課が東京のアンテナショップを持っています。東京のアンテナショップ自体は地産外商公社が運営をしております、先ほど言いました観光情報、委託料につきましても、地産外商公社のほう窓口になっておりますので、そういった意味では、地産外商の取り組みと一体的に情報発信ができるところについては、ともにやっている状況です。

◎依光副委員長 予算的なところは、すごい大事だと思うので、予算とか、その契約内容も含めて効果的に、それといろいろ横の連携もとりながら、ぜひやっていただきたいと思えます。要請です。

◎土森委員 プロモーション事業のフィルム・コミッションですけれども、映画というのは、ロケ地なんかすごく人が来ていると思うんです。そういう中におきましては、ロケ地とかそういう映画の中の、そういうことも高知を売っていく大きな要因になるかと思うんですが、予算がちょっと少ないように感じるんですけども、それは高知に対する要望がないということなんですか。

◎澤田観光政策課長 要望の大小については、昨年度につきましては、コンベンション協会が窓口ですので、そちらのほうのお問い合わせは108件程度いただいているところですよ。そういったところがでロケにつながりまして、総数でいうと32件程度はロケにつながっておりますので、確かに額は少し少額に見えるかもしれませんが、非常にフィルム・コミッション自体は、本県のPRにつながる重要なポイントでもあると思えますので、取り組み

は引き続き進めていきたいと考えています。

◎土森委員 映画も大事だと思いますのでお願いいたします。

◎三石委員長 質疑を終わります。

以上で、観光政策課を終わります。

〈国際観光課〉

◎三石委員長 次に、国際観光課について行います。

(執行部の説明)

◎三石委員長 質疑を行います。

◎大石委員 旅行商品販売促進事業委託料ですけれども、これ、この間の中でも伸びている予算ですし不用もないですし、市場のニーズに合った商品を販売するというのですが、これやってみて、ニーズをどう把握されたのかということと、そもそも、これを評価して、今後さらに拡大していく方向になったのかどうかをあわせてお伺いしたいと思います。

◎小西国際観光課長 旅行商品販売促進事業につきましては、昨年度、台湾、香港、シンガポール、タイ、中国、韓国、アメリカ、オーストラリア八つの市場で展開をしてまいりました。旅行商品につきましては、まずは、海外のセールス拠点のほうに、しっかりと旅行会社へアプローチをかけていただいて、旅行商品をつくって、その動向を分析をしていこうということで取り組みをしまして、例えば、台湾では昨年27社で168の商品が販売をされ、香港につきましては13社で28商品等が販売をされたということで、その内容につきましても、団体商品が中心でしたが、台湾ですと団体商品が165、個人が3商品ということで、圧倒的に団体商品でお客様がこられているということ。それから、香港につきましては、団体商品が18で個人が10商品あるということで、それぞれの商品で、特に団体につきましては、主要な観光地を周遊する、四国を周遊する商品が多いという分析をしております。

そして、今後やはり団体の商品の維持という部分と、プラスアルファで、個人のお客様を取り込んでいくという施策も必要になってくると考えておりますので、特に個人のお客様がどういった嗜好で旅をされているかという部分につきましては、先ほど少し触れましたが、在日外国人の専門家の方に高知に来ていただいて、商品づくりを始めておりまして、昨年度、2つの商品、四万十川を中心とした1泊2日の個人型の商品の造成、販売、そういったものにも取り組みを始めてきているところです。

◎大石委員 商品もいろいろ濃淡あると思うんですけれども、その取捨選択はどういう感じですか。例えば成果が出なかったとか、これは非常に好調だとかという場合に、県の考え方はどういうところで反映していくんでしょうか。

◎小西国際観光課長 団体商品の販売状況につきましては、現地の旅行会社にヒアリングをかけまして、売れなかった部分については、中身を入れかえをお願いをしていくとか、原因等についても協議を重ねながら、売れる商品をつくっていくということで、引き続き

取り組みを進めていきたいと考えています。

個人の商品につきましては、今、オンライントラベルエージェントで販売をしている事例が多くなってきておりますので、オンライントラベルエージェントと連携しながら、こういった商品が売れているかといったこと、それとオンライントラベルエージェントは利用者が、口コミで書き込みなんかもしてもらえることがありますので、そういった書き込み状況なども分析もしながら、外国の方の嗜好に合った商品を順次、市場に出していくように、オンライントラベルエージェントとも連携を深めていきたいと考えています。

◎大石委員 最後に、そこで得た知見を県内の事業者の皆さんに共有するとかは、もちろんこれ企業の皆さんの知見ですから、それをどこまで共有できるか難しいところもあると思うんですけども、そのあたりどうお考えですか。

◎小西国際観光課長 そういった部分は、例えば産振の観光部会など、民間の事業者も含めた会議もございますので、そういった場で、口コミの状況であるとか、そういったものもフィードバックもしていきたいと考えています。また、在日外国人の専門家のインバウンドプロジェクト・ディレクターを本年度から配置をしておりますが、そういった外国の方に直接、観光地をめぐっていただいたり、事業者の方と意見交換をして、外国の方がこういったことを望んでいるのかといった部分を直接お話してもらおう場面を、今年度から設けながら進めているところです。

◎浜田委員 よさこいチーム海外派遣委託料について、フランスに行ったということなんですが、なぜフランスに行ったんでしょうか。

◎宮地国際観光課企画監（よさこいプロモーション担当） 昨年度は日仏友好160年ということで、政府のほうで大規模な文化事業を企画されておまして、地方の文化を発信する企画ということで、10月に国内のお祭りを募集しており、高知もよさこいを応募しまして、選ばれましたのでフランスに行きました。

◎浜田委員 その成果はどうだったんでしょうか。

◎宮地国際観光課企画監（よさこいプロモーション担当） お祭りはフランスの公園で3日間開催されたんですが、主催者側で想定していたお祭りの集客人数が3万人だったんですけども、当日は6万人おいでたということで盛況でした。あと、各県がPRのブースを設けることができまして、高知県も3日間、観光などをPRして、フランス語のパンフレットも1,500部以上お配りすることもしてまいりました。

◎浜田委員 私、いつも同じことを思っているんですけども、スーパーよさこいとかは東京なんで、高知県のPRになると思うんですが、フランスへ行って日本のPRになっても、これ高知県のPRにほんとなるのかなと、国の事業なんでも思うんですけども、PRになるようにしていただきたいというのが一つと、それと、2020のオリンピックへという話なんですけど、もう1年もない中で進捗、ほんとにやれるのか、どういう見通しでや

られておるのでしょうか、現状を教えてください。

◎宮地国際観光課企画監（よさこいプロモーション担当） 1点目は、フランスでのPRにつきましても、日本の文化ということで発信をさせていただいたんですけれども、その中でも、よさこいに関しましては高知が取り組んでおります、よさこいアンバサダーのフランスの2チームの方とそれと高知県を代表するチームの方が一緒にそれぞれの踊りを披露すること。それと一緒に正調よさこいを披露する場面を設けまして、日本を代表するお祭りで、フランスの方も楽しんでくださっていることをしっかりPRしてまいりました。

それともう1点、オリンピックに関しまして、日が迫っておりますので、よい結果をと思っているところですが、組織委員会のほうには、団体を通じてこれまで5回要望活動を行ってまいりました。いつごろわかるのかということなどもお尋ねしているんですけれども、そこはもう最後まで結果はわからないということをお願いしております。いろんな企画をつくれる方には、私どもの要望書はしっかり届けていただいていることも伺っておりますので、それがよい結果になるように、引き続き、要望活動を続けますとともに、全国のよさこいが、いろんなイベントの場面でよさこいを披露することで、機運を盛り上げてまいりたいと考えております。

◎浜田委員 よさこいって、私も国外、そして国内の友人に説明するのに最も難しいお祭りで、一体、よさこいって何って聞かれたときに正調を教えたらいいのか、ほにやを教えたらいいのか、何を教えたらいいのかと、非常に難しく、選考するほうも非常に難しいです。型がないというのが売りで、自由で高知県らしいと思うんですけれども、非常に厳しいところはあると思いますが、せっかくやるんですから、いい答えが出るように努力していただきたいと思います。

◎今城委員 外国人の宿泊者数、全国で45位と下から3番ということですが、取り組みとか予算的にやっぱり十分なのかそのあたりを。

◎小西国際観光課長 外国人の延べ宿泊者数につきましては、平成30年1月から12月の観光庁の統計で7万9,160人泊ということで、委員おっしゃるように、全国では45位の数字になっております。過去、平成28年、平成29年、平成30年と7万5,000人台から8万人弱ということで、少し全国に比べると、伸び率が小さい状況もございますので、インバウンドの誘致の予算も増額をさせていただきながら、それから人員も増員していただきながら、強化をして取り組んでおるところです。

◎今城委員 産振計画でも昨年の目標12万3,000人ですか。ことしの目標は14万8,000人と、もう目標に対して半分程度しか達成できないということですから、新たな手を打っていかないと、この目標の達成が不可能だと思いますので、そのあたり、よろしくお願いします。

◎小西国際観光課長 おっしゃるとおり、厳しい目標値に向かって取り組みを進めていかななくてはならないとも考えておまして、先ほど少し御説明もさせていただきましたけれ

ども、海外の団体旅行商品中心に、旅行商品はしっかりとつくれている状況ですので、今後は、海外の旅行商品を手にとる旅行者の皆さん、エンドユーザーの皆さんに、しっかりと高知が観光地であることをイメージできる広報、そういったプロモーションを展開して、ラインナップされている旅行商品を手にとっていただけるような取り組みも、あわせて強化してまいりたいと考えています。

◎**今城委員** 最後に、四国で連携してということがありましたが、瀬戸内の人はやっぱ瀬戸内で、商品どんどんつくりますので、こっちは蚊帳の外になっていますが、高知県もできる方法とか取り組むと言っていましたけれども、何か特色のあることはありますか。

◎**小西国際観光課長** 四国で連携して取り組むということでは、例えば、今四国で高松空港に台湾からの直行便でありますとか、あと松山空港にこの7月から定期便も入ってまいりましたので、そういった高松、松山空港に降り立ったお客さんを、しっかりと高知のほうに周遊をしてもらうという取り組みを四国で連携をして、また、香川県とも合同で、例えば、現地で商談会を合同で開催をしたりとかいった形で、鋭意、取り組んでいるところです。

◎**田所委員** 外国人の観光客、インバウンドの観光振興によって多くの外国人が高知に訪れるということは、高知にとっても有益なことであります。旅行商品の販売促進であったり、観光客誘致の促進、これも本当に大事なことで、どんどん進めていかないといけないと思うんですが、外国人が高知にどんどん入ってくるということは、防犯対策という面で態勢構築もいるのかなと想像ができるんですが、それに対しての御所見と、それに対して懸念事項として常に認識されているのであれば教えていただきたいのと、ほかの機関ともう既に検討が始まっていれば、お聞かせいただきたいと思います。

◎**三石委員長** 県警との関係もあろうかと思うんですけれども、どっちが答えますか。

◎**小西国際観光課長** 外国人の方の防犯対策ですが、現在のところ、旅行商品を購入されて団体でツアーでこられている方、あと個人の方ですが、特段、防犯対策について、観光施設もしくは宿泊事業者の皆さんからの相談等は今のところを受けていない状況で、対策という部分については、今県警も含めて相談をしている案件はございません。

ただ、委員おっしゃるように今後、増えていきますし、そういった事案が出てくることも想定もされますので、他県の先進的な取り組みとか勉強しながら、対応していきたいと考えております。

◎**大野委員** さっき浜田委員もおっしゃっていたLCCなんですけれども、昨年12月に就航して、今回、関空の便が減便になったということなんですけど、そうしたことがありながら、LCCのメリットとして国際空港とつながるというメリットがあると思います。そうしたことで、外国からLCCを通じて高知へというルートができたんじゃないかなと思って喜んでいたところなんですけど、外国人観光客はどんな感じでしょうか。

◎小西国際観光課長 LCCの就航ということで、成田空港それから関西空港と高知龍馬空港が結ばれるということで、国際空港と高知のアクセス環境がよくなっております。ただ、LCCの運行をされているジェットスターにもお聞きはしているんですが、外国の方の利用という部分においては、個々の数字は教えていただいているんですが、ジェットスタージャパン全体のフライトで、大体1割程度ということを講演会で言っておりました。まだまだこれから利用をふやしていく余地があると思いますので、特に、関西空港なんかにつきましては、台湾とか香港、それから韓国、そういったところのエージェント、それから個人のお客様に向けてそういったアクセスルートがありますよということは、しっかりとお伝えをしていかないと考えております。

そしてまた、旅行商品も、できればということで、旅行会社にもアプローチをしていますけれども、四国に直行便が来ているので、乗りかえて高知へ来るという部分が、お客様にとって利便性が厳しく、やっぱり直行で目的地へ入りたい意向も強いというお話も旅行会社からはいただいておりますが、引き続き、LCCのそういったアクセスがあるということもしっかりとPRをしていきたいと考えています。

◎依光副委員長 よさこい海外認知度向上等事業委託料、よさこいアンバサダーがすごい活躍してくれていることをすごく心強く思っていて、各地域で今よさこいアンバサダーの認定を進めていると思います。旅費としては地域を選んでということだと思えますけれども、ことしとか見ていたらヨーロッパのチームが誘い合って、連携して来たりとか、認定して何かこうネットワークができてきているなど。その支援も、何かこれからしていかなんとかのじゃないかなと思うし、よさこいが海外にという話でいくと、何か日本のイベント、さっきのフランスでやったときに現地の方と連携してやるということは、外務省からしてみてもいい話と思うんです。

その中で、よさこいアンバサダーを認定したけれども、旅費が足りなかったら高知にこられないということではなくて、南米のチームが鳴子足りないということで、いろいろお配りしていることも知っていますが、高知にこられなくても、よさこいアンバサダーが、高知と毎年つながっているということもせんといかんと思うんですけれども、この予算は旅費やと思うんですが、それ以外、次の予算考えるときの考え方とか、何か考えはないでしょうか。

◎宮地国際観光課企画監（よさこいプロモーション担当） 現在、フランスで認定したよさこいアンバサダー2チームが活動されているということで、フランスでも新たに今5チームの方が活動されていまして、一緒に連合して、フランスの催しに参加されたりというお話もたくさん伺っております。ヨーロッパでしたら、フランスだけではなく近隣国の方なんかも一緒になって、フランスの大きな文化イベントに参加されるというお話も伺っておりますので、その際に、直接そこに支援ということではないですが、高知のPRの素材

を送って高知のPRしていただいたり、その際に、日本の傘があるとPRになるというお話をいただくと、傘をお送りするとか、そういうところで連携とりながら協力をしているところです。そこのニーズについてはまた情報という形で、連絡を密にして、深く効果的に取り組んでいけるようにしてまいりたいと思います。

◎依光副委員長 関係性をつないでいくために予算が必要であれば、旅費といたらでっかいお金になりますけれども、鳴子を送るであるとか、そういう関係であればそんなに予算もかからるので、定期的にやってもらいたい。あと、細かい話なんですけれども、51万2,000円で追手筋本部競演場の観覧環境を整えるアンケートがあつて、県というよりは商工会議所の仕事かもしれないのですけれども、よさこいのDVDとか見ている、受賞チームが踊っているのに、客席が、がらがらというのはすごくもったいなくて、こういうところで海外客に、あいているのであれば、例えば外国人がわかるものがあれば、何か無料で見れるようにしてちょっとでも席を埋めるとか、アンケート結果は、暑いからなかなか人がふえんとか、そういう結果であろうとは想像するんですけれども、これを何か生かしていくとか、そこら辺はいかがですか。

◎宮地国際観光課企画監（よさこいプロモーション担当） このアンケートにつきまして、昨年4月16日によさこい祭りの日の宣言を行いまして、よさこいに関連する、よさこい祭り振興会、高知市観光協会、競演場連合会、高知県、高知市、5団体でよさこいをこれから発展させていくためにどうしたらいいかということで会議を設ける中で、海外からこられる方なども、栈敷席はよく御利用になりますので、もっと魅力的にするにはどうしたらいいでしょうというお尋ねをして、アンケートの実施に至ったものです。

昨年アンケートを実施しましたら、やはりすごく魅力的な場所だけれども、暑さがちょっと気になるというお話をいただきましたので、ことしは第1弾として、栈敷席を運営している高知市観光協会で、チケットをちょっと早く販売したりとか、販売方法を工夫されたり、それと瞬間冷却材を配られて、できるだけ暑さを回避して楽しんでいただける取り組みをしていただいているところです。

なので、海外の方が来たときに、どういう対応ができるかにつきましても、その会議の中で、皆さんにお知恵をいただきながら、所管する高知市の観光協会とも御相談をさせていただいて、効果的な方法を組み入れていただけるようにしていきたいと思っております。

◎依光副委員長 自分は北海道でよさこいソーランに行ったら、無料パスみたいなものをもらえて、あいていたらどこでも座っていいというのがあつて、入場チケットのお金は入らないけれども、そこで写真を撮ってくれて、海外でPRしてくれたらいいという、そういう考え方もあろうかと思うんで、あいているところは、自由に入れる仕組みをつくったほうが、お互いにとっていいかなと思って、提案しますけれども、また御検討いただければと要請します。

◎三石委員長 提案、要請ということで。

◎岡田委員 産振計画では、外国人の延べ宿泊者数の目標が前倒しになっていますよね。2年間、令和7年度30万人泊が令和5年度30万人泊と、前倒しにした関係での予算の変更といたしますか、取り組みの変化はどうでしょうか。

◎小西国際観光課長 当初、令和7年の30万人泊ということで、産振計画で10年後の目標値を掲げておりました。それを令和5年、2年前倒しをして次期の産振計画の最終年度、そこに30万人泊を持っていくように前倒しをして、ここ数年、全国の伸びからすると、伸び率も少なくなってきておりますので、そういった部分を抜本的に伸ばしていくということで、予算については、去年もことしも強化をしているところです。

先ほど申しあげましたように、旅行商品をマーケットに投入して、そしてそれをとってもらえるように、エンドユーザーの方に高知を知ってもらう取り組みがこれからの課題だと考えておりますので、そういった部分をさらに強化をさせていただきながら、前倒しした30万人泊に到達するように、努力していきたいと考えています。

◎岡田委員 政府も観光立国ということで、積極的に取り組まれておられますけれども、実際なかなか厳しいと、近年、平行線というか、ちょっと下降という状況が実態だと思います。その中でこの目標をやっていくというのは、なかなか努力が必要だなと思っております。そういう中で、どう売り込むかなんですけれども、そもそも目標設定として、国際観光ですので、当然世界的な経済の状況だとか、あるいは為替の動向だとか踏まえて目標設定がされているものだと思いますけれども、国内のイベント、特にオリパラありますし、博覧会等ありますけれども、やっぱりそういう取り組みとあわせて、高知としてはどうやっていくか、目標を決めていかなければならないと思いますが、そんな議論の中でのポイントはどういうところでしょうか。

◎小西国際観光課長 インバウンドの誘致につきましては、世界経済の状況とか世界的なイベント、そういったものの影響は出てくると考えています。今回、令和5年に前倒しをして、大幅に伸ばしていこうという部分におきまして、先ほどエンドユーザーへのプロモーションの強化という部分と、もう一つ、アクセス環境という部分も、大きく影響をしていると考えています。高松、それから松山のほうには台湾、香港などからの直行便もございます。高知の場合、直行便がないので、なかなかアクセスが容易でない部分もございますが、中山間振興・交通部とも連携しながら、高知龍馬空港を国際便にも対応できるよう改修の議論も進んでおりますので、我々もそちらにも入って、一緒になって高知に、まずはチャーター便も誘致しながら、そして将来は定期便につながるセールスをして、高知と海外が直接つながる導線をつくることによって、大幅に宿泊客も伸ばしていけるのではないかと考えているところです。

◎岡田委員 チャーター便の話が出ましたけれども、チャーター便の現状と今後の目標は

どうなっていますか。

◎小西国際観光課長 チャーター便につきましては、本年度は30往復の目標を掲げて取り組みを進めております。本年度につきましては、1回モンゴルのほうから、これはアウトバウンドの需要もあって、就航をしている状況です。

これからの部分につきましては、空港のスポットの利用時間と海外から飛んでくる時間との調整なんかなかなかうまくマッチングしていないこともあって、今年度はまだ就航はしていませんが、昨年、旧正月に5便ほど台湾から入っていただいておりますので、旧正月をねらってチャーター便の誘致を今鋭意、台湾、そして中国も含めて行っているところです。

それともう一つ、四国で連携するという部分がございます、高松空港、それから徳島空港とも連携をしまして、徳島には12月から3月に香港からチャーター便が就航してくるということで、そこは一緒に誘致をしまして、高知への宿泊を含む商品造成をセールスしております。高松空港につきましては、台湾の高尾から1月から3月ですが就航予定ということになりましたので、そちらも、香川県と共同で現地にセールスに行って、高知の宿泊を含む旅行商品を造成してもらうということで、営業をかけているところです。

◎岡田委員 今後の目標はどんなになっていますか。

◎小西国際観光課長 今後につきましては、高知龍馬空港の整備と連動させながら、令和4年度にターミナルビルの完成を計画をしておりますので、その時期にあわせた形で、チャーター便年間100往復を今目標に掲げて取り組みをしているところです。

◎岡田委員 令和4年度に100往復ということですか。

◎小西国際観光課長 空港ネットワークの資料を作成したときには、令和3年がターミナルビルの完成予定となっておりましたので、令和3年を、ターミナルビルの完成とともに100往復という目標を掲げておりましたが、少し完成が遅くなることを9月議会で議論されておりますので、令和4年には100往復を達成したいと考えています。

◎岡田委員 チャーター便は、羽田とかを通じてということではなくて、高知と海外と直でということですか。

◎小西国際観光課長 高知と海外の直になります。

◎岡田委員 今年度30往復で、令和4年100往復と3倍余りですね。この短期間で、空港が拡張されたとしてもなかなか大変な、私は高い目標だと思っているんですが、これ実際進めていくのはなかなか大変な事業になると思いますので、かなり力を入れてやっていかなければならないと思います。

あわせて国際的にもアジア重視なんですけれども、特にヨーロッパとの関係、日仏の関係も交流の話がございましたが、物流の面でもヨーロッパとの関係もありますし、ヨーロッパ向けの発信はどんな取り組みを考えていますか。

◎小西国際観光課長 ヨーロッパ方面への発信ということでは、今四国で連携してということも申しましたが、四国で連携して四国遍路を売っていこうという取り組みもしております、四国ツーリズム創造機構、4県とJR四国が主となって四国の観光を推進している組織ですが、そこが例えばフランスとか、そういったところでの旅行博に出展をしまして、四国遍路、そういったものをPR進めております。あわせて、私どものホームページも英語版のホームページございますので、そういった部分で、しっかりと英語圏の国々に届くように、これから、さらに広報を強めていきたいと考えてます。

◎岡田委員 四国はひとつということで今、四国遍路というお話ありましたが、私、それ言おうと思っていたところだったんですが、私も時々外国人のお遍路さんに出会って、道を尋ねられたりします。やっぱり外国人対応、大事だと思いますし、特にお遍路となると長期滞在に当然なってきます。そして団体だけでなく、個人でおいでしてくれるということもありますので、これは四国はひとつでぜひ売り込み、PRをしていただければと思います。団体とあわせて個人の方にも来てもらうということでの取り組みでいろいろ工夫をしてやらないといけないと思いますし、特に観光、裾野が広いといわれていますし、地域への波及効果をどうつくっていくのかも、高知県の中山間にも広がる滞在型に、どうつなげていくかも課題でないかと思っておりますので、そういう点では、引き続きしっかりやっていただければと思います。これ要望です。

◎三石委員長 質疑を終わります。

以上で、国際観光課を終わります。

〈地域観光課〉

◎三石委員長 次に、地域観光課について行います。

(執行部の説明)

◎三石委員長 質疑を行います。

◎大野委員 観光拠点等整備事業ですけれども、市町村にとってはすごくありがたい事業で、本当に助かっているんですが、観光地なんかで民家が少なくて携帯電話の電波が届かない溪谷とかあると思うんですが、そういったところに、携帯電話の基地局みたいなのをやる要望があった場合にはどうなりますか。

◎別府地域観光課長 この補助金ですけれども、基本的には新しい経済効果を生み出す取り組みに対して支援をしまして、そういった取り組みとセットで、Wi-Fi設備なんかも整備していくということであれば、補助対象に十分なり得ると考えております。

◎大野委員 おかげさまで、特に仁淀川流域は溪谷に観光客がすごくふえてきて、今、道路の問題とかいろんなところで課題があるんですけれども、その中で溪谷で水遊びをする方が多くて、そういったときに子供たちが溺れたりとかしたときに、携帯電話が繋がらないのは致命的なことだと、現地の方でそう言われる方もあって、整備ができないかなと

いうことで、お伺いさせてもらったんですが。

◎別府地域観光課長 仁淀川町では今、安居溪谷と中津溪谷を中心にクラスター形成とい
いますか、多くのお客さんが来ていますので、そのお客さんにいかに仁淀川町を回って
もらうかという仕組みづくりが進んでいます。その中で、トイレなんかも新しく洋式化しま
しょうという取り組みも進んでいますので、W i - F i 設備なんかも、市町村のほうにそ
ういった部分で事業をしませんかということも、投げかけてみたいと思います。

◎大野委員 ハード整備なんかだったら、裏に起債とかも充てているところもあるんです
よね。

◎別府地域観光課長 そうですね、市町村も有利な財源ということで、裏財源に過疎債を
充てたりとかいう形で取り組みを進めているところです。

◎大野委員 ちょうど今名前出たんですけれども、中津溪谷は民家が近くにあるんですが、
安居溪谷とか、もうほんとに人がいなくなってしまうって、観光客だけがいる状態があっ
て、携帯の基地局をやるというても、事業体のほうはなかなかやるとならないので、何かいい
方法はないかなということで、ぜひ検討もお願いします。

◎三石委員長 要請で構いませんか。

◎大石委員 先ほど大野委員の言った予算の部分なんですけど、ライダーズインの話があり
ましたけれども、この間報道もされましたが、工期おくれた一つの理由が、当初建設した
ときに県のお金が入っていたのを気づかずに、処分申請がおくれたという報道があったと
思います。ここで予算を上げている中で、県の適切な指導といいますか、アドバイスがあ
ったのかどうか、まず、お伺いしたいんですけれども。

◎別府地域観光課長 室戸市の件ですけれども、ライダーズインがちょっとおけている
と報道もありまして、今、指定管理でやろうという部分で、なかなか受ける先が今ない
とかいうこともちょっと聞いています。その都度、県のほうにも相談も来ておりますので、
ちょっと遅くなっておりますけれども、一定めどもつきつつあるという話もお聞きして
おります。今月末には、一部でき上がっている部分について内覧会をするということで、
また、指定管理も募集を行うと聞いていますので、もうすぐ、いい形でスタートできるん
じゃないかなと考えているところです。

◎大石委員 ちょっと質問の意図が伝わっていなかったと思うんですけれども、この予算
の中に解体の費用が入っていたと思うんですが、工期がおくれた理由に、県に対して処分
申請の申請をしていなかったのを市が気づいていなくて、書類の問題で3カ月ぐらいお
くれたという記事があったと思います。そのあたり、事前にこういう予算をつけるときに、
こういう手続が必要だというアドバイス、助言みたいなものはしていなかったのかとい
う趣旨の質問です。

◎別府地域観光課長 大石委員がいわれた部分ですが、その部分については、うまくう

ちのほうでアドバイスできていなかった部分があるかもしれません。

◎大石委員 書類の話だと非常にもったいない話なので、ぜひ、今後ないようにしていただけたらと思います。

もう一つ、海洋館なんですけど、細かい話で恐縮なんですけれども、愛称とシンボルマークを平成30年度の予算で募集したと思うんですが、平成31年度の予算にもロゴマークみたいなものでまた、報奨金もそれぞれ違うんですか。これはまた別もんなんですか。

◎別府地域観光課長 まず、愛称の募集を昨年度行いまして、ことしやったのは、ロゴマークです。愛称をまず決めまして、それに基づいて、SATOUMIというイメージのロゴマークを募集した形になります。

◎大石委員 平成30年度の予算のときに愛称とシンボルマークを同時に募集するという予算になっているように思うんですけれども、それは途中で変更があったんですか。

◎別府地域観光課長 まず、愛称のほうは平成30年度に募集をするということで、一定、平成30年度でチラシとかを先につくらせてもらったところになります。

◎大石委員 愛称なんですけれども、これ一応もう終わって、いい愛称だと思うんですが、その上でお伺いしたいんですが、室戸廃校水族館、もちろん管理者違いますが、あそこは愛称を自分たちで決めたいということで、管理者のほうが決めたと思うんですけれども、これを決める場合に、公募が一般的だと思うんですが、やはり自分たちの戦略に基づいて、自分たちで決めるという方法もあったように思うんですね。ネーミングライツをするとか、そのあたり実際やられてみて3,000件ぐらい募集も来たということではなかったんじゃないかとは思いますが、いろんなことを検討されていたとは思いますが、ちょっと総括をお願いします。

◎別府地域観光課長 海洋館の愛称とシンボルマークなんですけれども、その部分につきましても、プロモーションの一環という位置づけで県としては開催をしまして、そういう部分でいきますと、オーテピアの例に比べましても、非常に多くの応募が全国からあったということで、プロモーションの効果として非常にあったのかなと考えているところです。

◎大石委員 最後に1点だけ。管理運営委託料なんですけれども、観光開発公社にずっと委託されていますが、御案内のとおり、あそこはずっと赤字体質といいますか、人件費も非常に厳しい、平均年収200万円ぐらいですか、それで皆さんやっている中で、新しく再出発なんですけれども、今回もこれぐらいの委託費で適正だったのかどうかと、今後の見通しも含めて、ちょっと決算ということでお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

◎別府地域観光課長 足摺海洋館につきましては、この4月からは指定管理者制度に移行して、管理運営を同じく公社に委託をさせていただいております。その際には、予算としては4年間の指定管理で、ほぼ4億円ぐらいということで、今の運営費よりは1年単位にしますと、大きな金額を委託をさせていただいているところになります。

◎三石委員長 以上で、地域観光課を終わります。

ここらで暫時の間、休憩にしたいと思います。再開は午後1時でお願いをいたします

(昼食等のため休憩 11時58分～12時59分)

◎依光副委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

御報告いたします。三石委員長から少しおくれる旨の届け出がっております。

地域観光課から午前中に行いました大石委員からの質疑における発言内容の補足説明を行いたい旨の申し出がっておりますので、地域観光課の説明を求めます。

◎別府地域観光課長 午前中に大石委員から室戸のライダーズインの補助金関係で、県のほうで指導したのかというお話がございました。適切に指導をしなかったかもしれないと回答をしたところですが、事実関係を確認したところ、県としては財産処分の手続が必要となることがわかった時点で、市町村に指導をしているということです。今回のケースでいきますと、一般的に補助金を活用して建てた建物をリニューアルする場合や建物も撤去するという場合に財産処分が必要になってくる。改修の場合は財産処分の制限にかからない部分がございます、今回の室戸市のケースでいきますと要望段階の時には、既存施設を活用して、改修するというので県としては話を聞いていたところなんですけれども、実際、10月にリニューアルの実施計画書が出てきた時点で、一部撤去するという話が判明しまして、その時点で財産処分の手続が必要ということでお話をさせていただいて、実際補助金を活用した団体が解散しているとか、そういうことで作業までに時間がかかったというところなんです。

〈おもてなし課〉

◎依光副委員長 次に、おもてなし課について行います。

(執行部の説明)

◎依光副委員長 質疑を行います。

◎岡田委員 おもてなしという点で、ジェットスターLCC、格安の航空機ができて、関西方面からも来やすくなっているんですが、障害を持っている方で、電動車いすで高知に来たいという方が調べたということでお話を伺ったんですけれども、高知の飛行場に着いても、電動車いすで移動する手段がないと。乗り合いタクシーで最寄りの駅へ行くにしても、そういう乗り合いタクシーはないし、シャトルバスについても、県外ではトランクルームに車いすを乗せて運べるようなものを導入しているところもあるそうですが、高知ではないと。結局、高い福祉タクシーを雇って移動することになって、せっかく格安の航空便ができたのに、行きやすくなったかと思ったら、そういうことでどうしようかと思って

いるという御相談をいただいたこともあります。そういった点で、今後、おもてなしといえますか、きめ細やかな対応を官民協働で考えていく必要があると思うんですけれども、どうお考えですか。

◎谷脇おもてなし課長 バリアフリーとバリアの関係の調査をさせていただいているんですけれども、そういった中で、交通施設とかいろんな観光関係事業者のところに参ります。単に調査をするだけではなく、その施設の方が一緒に調査に入ってくださいることがあります。そういうことが、結果、観光の推進につながっておりまして、心の中のバリアを少し下げることによって、ハードだけではなく、ソフトで一緒になってやることのできる、そういった環境を整えることとあわせて、来年度つくろうとしております相談窓口は、先ほど電動車いすのお話がありましたが、その障害のある方にとって、普通の車いすとか電動車いすとか、その方の状況に応じて利用できるできないといったものがあるかと思えますので、それにしっかりと答えできる相談窓口をつくりまして、そこで単にやるだけではなく、相談を受ける技術につきましても今年度研修もやっておりますので、ソフトのほうをしっかりと進めながら、観光客の受け入れをしていきたいと思っております。

◎岡田委員 多くの人に高知へ来て楽しんでいただきたいですし、こちらにより来やすくなるように、引き続き取り組んでいただきますよう、要望しておきます。

◎大石委員 コールセンターなんですけれども、これは入札の結果、思ったより安く取れて、使っていないお金があるということだと思ってしまうんですけれども、これ24時間でやられていると思うんですが、対象施設は、民間のホテルとかは確か使えないんですよね。

◎谷脇おもてなし課長 主に観光関連施設となっている宿泊施設とかも、お使いいただくことができますし、タクシーとかもできます。

◎大石委員 かなり予定よりも安く取れていると思うんですが、これはいろんな翻訳機とかが普及しているから、この仕事の単価が下がっているイメージなんですか。

◎谷脇おもてなし課長 このコールセンター事業は、全国的にも導入され始めているんですけれども、入札になります。29年度の補正予算を認めていただいておりますので、正確には29年度にやらせていただいているんですけれども、その時に3社入札に来ていただきまして、その結果ということになります。

◎依光副委員長 質疑を終わります。

以上でおもてなし課を終わります。これで観光振興部を終わります。